

雌阿寒岳

○2006年3月21日噴火に伴う傾斜変動

3月21日の小噴火に伴う傾斜変動がポンマチ火口西北西約2 kmに設置している傾斜計で観測された。傾斜変動は微動の開始とともに始まり、全体として約5分間にわたって続く山頂方向の隆起変動のなかに、顕著な隆起-沈降パルスが含まれていた。

このパルスは微動の開始あるいは微動振幅が急増し始める付近から始まり、微動振幅が減少するなかで起こった最初の地震を境に沈降に転じる。パルスの終息時には山頂に近いMEAP1の振幅が再び増大し始める。このパルスの隆起から沈降への反転は、開始時刻が同定されていない火口の開口を示しているのかもしれない。また、隆起から沈降へ反転した付近ではMEAP1に比べてMEACMGの振幅が大きい深い地震(図2 A)が発生し、この地震と隆起-沈降パルスとの関連が注目される。

傾斜ベクトルは、隆起-沈降パルスがポンマチネシリ南壁にある活動火口を向いているのに対して、全体的な傾斜方向(図1 灰色矢印)はポンマチネシリの北方を示し、今回の傾斜変動はソースの位置が異なる複数のイベントで構成されていることを伺わせる。

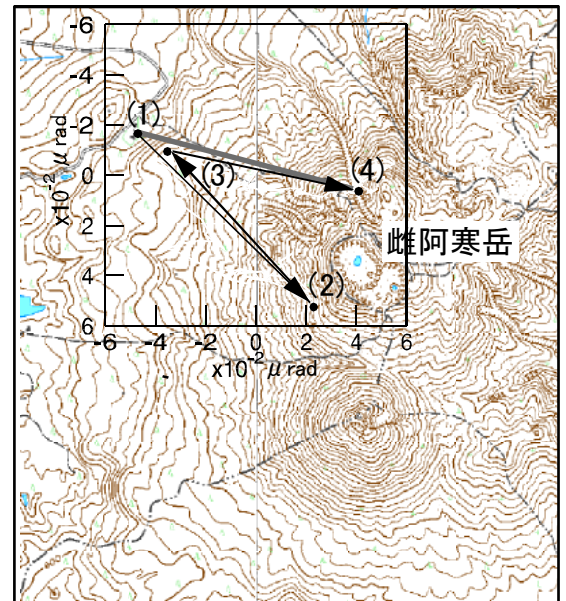


図1 傾斜ベクトルの時間変化。(1),(2),(3),(4)は図2に示す時間に対応。

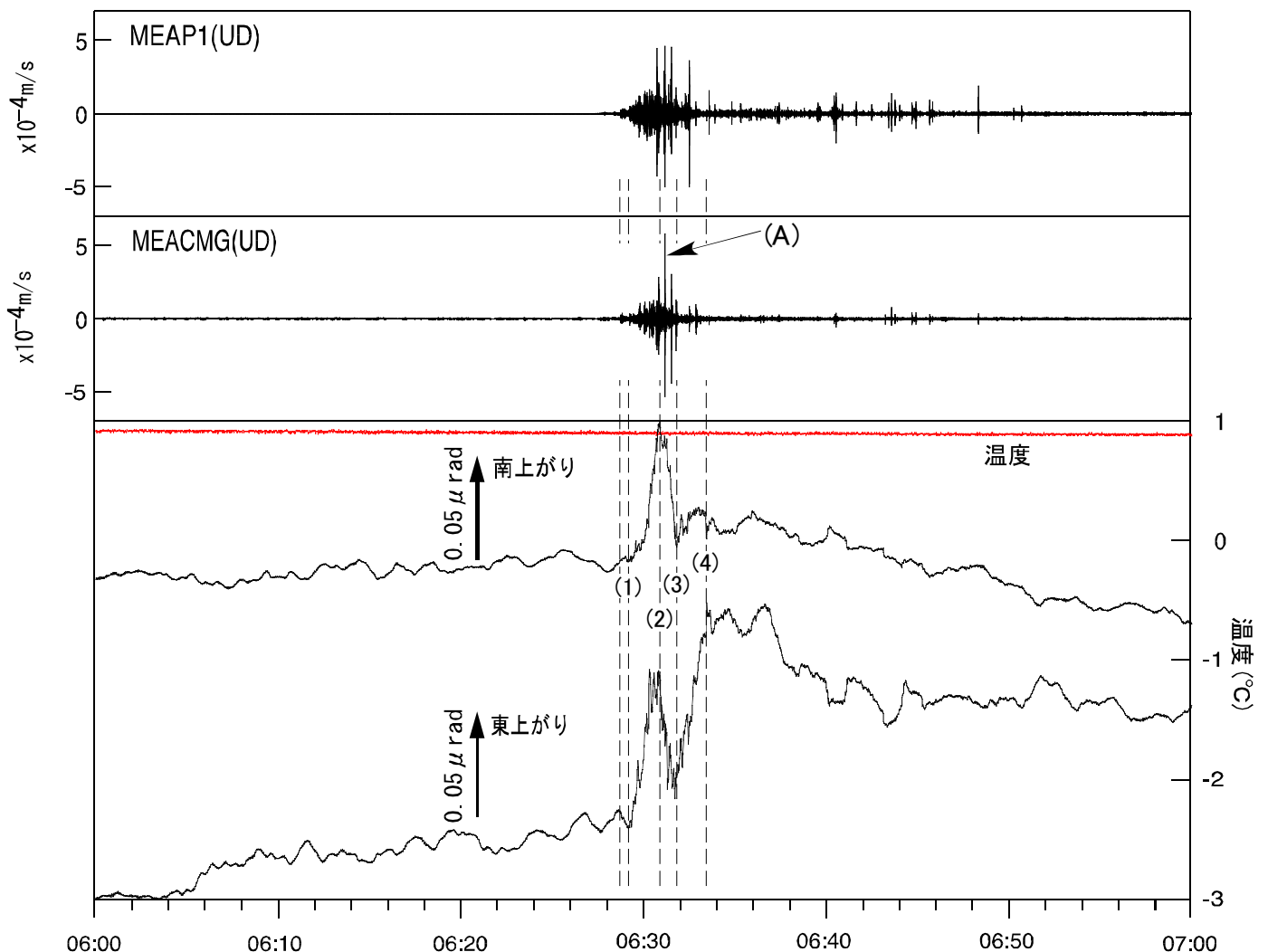


図1. 2006年3月21日噴火に伴う微動と傾斜変動。

(大島・青山)

雌阿寒岳